

みんなが住みやすい持続可能な社会にすること。これは、よりよい未来に欠かせないことだ。そのためには、一人一人がごみの排出量を減らす意識をもつことが大切だと私は思う。

最近、テレビでごみ問題について特集していた。ごみを焼却するためにたくさんのお金が使われていること、埋め立て地がもうすぐいっぱいになってしまうことなどを知り、とても大変だと思った。そこで、自分にも何かできることはないかと考えてみることにした。

私たちが出すごみの量はどのくらいなのだろう。そう思つて、私はインターネットで調べてみた。環境省のホームページによると、日本に住む一人一日に出すごみの重さは、九四七グラム(平成二十六年度)ということだった。

一人だけが減らそうと努力しても、そんなに変わらないという意見もあるだろう。確かに、今この瞬間も、ごみは出続けている。一人で努力しても、日本全体のごみの排出量はそんなに変わらないかもしれない。しかし、誰かが始めなければ、何も変わらない。

長野県では、一人が一日に出すごみの重さは八三八グラム(平成二十六年度)で、日本一少ないのだそうだ。今でこそ一位の長野県も、平成十七年度は全国七位だった。そこで長野県民は、「八〇〇グラムの壁」を破ろうという取り組みを始めたそうだ。長年にわたる取り組みが成果を上げ、一人一人の意識が変わり、今の結果につながっている。人の意識は変えられるのだ。

日本のごみ問題を解決するのは大変だけど、一人一人の意識は変えられる。だから、まずは自分が始めようと思う。そして、少しずつ、周りの人にもごみを減らす意識を広めていきたい。それが、誰もが住みやすい、持続可能な社会を作っていくことにもつながっていくだろう。

【「文集はちおうじの子」より】

問1 みんなが住みやすい持続可能な社会にするためには、何が大切ですか。□にあうように書き抜きなさい。

一人一人がごみの

を減らす

をもつことが大切。

問2 筆者はどのようにすれば人の意識を変えられると考えていますか。

ア 自分からこつこつ努力することで、まわりの意識が変わる。

イ 長年にわたる研究によって、一人一人の意識が変わる。

ウ ごみを焼却するためにたくさんのお金が使われていることを知らせることで、人の意識は変わる。

エ 誰もが住みやすい、持続可能な社会を作っていけば、意識は変わる。

